

## 研究所報 53巻：はじめに

出版者	法政大学日本統計研究所
雑誌名	研究所報
巻	53
ページ	i - i
発行年	2021-03-31
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10114/00024170">http://hdl.handle.net/10114/00024170</a>

## はじめに

現在、政府ではGDP統計の改善の一環として、産業別の付加価値を的確に把握するため、SUT(Supply and Use Tables、供給・使用表)体系への移行を進めている。具体的には、GDP統計の推計方法を、基礎統計から産業連関表を経由してSUTを推計する現行体系から、基礎統計から直接SUTを推計する体系に変更していく予定である。これは産業連関表の在り方に大きな影響を与える変革である。本研究所では環太平洋産業連関分析学会と共催で2020年10月24日(土)に北村行伸氏(統計委員会委員長, 立正大学)の講演会「産業連関表から供給・使用表へ」を開催した。さらに北村行伸氏、中村洋一氏(法政大学)、萩野寛氏(統計委員会担当室長)、八木尚志氏(環太平洋産業連関分析学会会長, 明治大学)によるパネルディスカッションを実施した。コーディネーターは櫻本健氏(立教大学)、司会は本研究所所長である菅幹雄が担当した。今回の所報は、講演およびパネルディスカッションの内容を記録したものである。なお、この講演会は元々2020年10月23～25日に開催予定だった環太平洋産業連関分析学会全国大会(会場:法政大学市ヶ谷校舎)のイベントとして企画されたものであったが、新型コロナウイルスの流行のため大学施設が使用できなくなり、全国大会が中止されたため、場所をお茶の水ホテルジュラク(〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町 2-9)に変え、環太平洋産業連関分析学会の総会の後に実施されたものである。

2021年3月 日本統計研究所